

事業番号	1	0	1
実施計画事業	○		
実施計画事業以外の事業			

令和元年度 事務事業評価シート

1. 事業の概要

事務事業名	姉妹都市・友好都市交流事業				担当部	地域活性化営業部					
事業期間	平成25年度 ~ 令和2年度以降				担当課	シティプロモーション課					
新基本計画 (平成26年~平成30年)	基本施策	18	展開方向	5							
予算区分	一般会計	款	07 商工費	項	01	目	03	大	05	中	01

2. 実施状況

【平成30年度の実施状況】

- 姉妹都市・友好都市との交流を深め、今後のより良い関係づくりに寄与するため、姉妹都市米国ワイアンドット市及び友好都市北海道八雲町との都市間交流の推進を図った。
 - ・姉妹都市ワイアンドット市派遣事業
姉妹都市であるワイアンドット市との交流を深めるとともに、ホームステイを通して、生活・文化・習慣など、日本との違いを理解し、国際的な相互理解の重要性への認識を深めることを目的に本市中学生を派遣した。
派遣期間：平成30年5月2日(水)~平成30年5月8日(火) 5泊7日
派遣団員：市内中学新2年生・3年生 12名、市内小・中学校の教諭2名(男性1名・女性1名) 計14名
 - ・姉妹都市提携55周年ワイアンドット市訪問事業
ワイアンドット市との姉妹都市提携55周年を祝うとともに、両市の絆を深め、友好関係を持続させるため、小牧市代表団を派遣した。
派遣期間：平成30年8月8日(水)~8月12日(日) 4泊5日
派遣団員：副市長、議長、姉妹都市・友好都市交流委員会委員長、小牧・ワイアンドット友好市民の会会長、随員職員 計5名
 - ・小牧市・八雲町交流30周年記念事業
小牧市・八雲町交流市民の会が発足して30年を迎えることから市民の会交流30周年を祝うとともに友好関係の絆をより一層深めるため、記念事業を開催した。
開催日：平成30年7月27日(金)
会場：小牧コミュニティホール(名鉄小牧ホテル)
参加者数：約120名

3. 総合診断

事業費	項目	単位等	H27	H28	H29	H30	R1	
			直接経費	財源	千円	5,177	2,636	824
		一般財源	千円	5,177	2,636	824	9,079	
		国・県支出金	千円	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	
		計(A)	千円	5,177	2,636	824	9,079	
		対前年比	%	-	50.9%	31.3%	1101.8%	
		(当初)予算額	千円	10,400	7,875	6,867	21,591	12,501
	人件費	正職員	人	1	1	1	1	
		正職員(平均人件費)	千円	7,486	7,486	7,486	7,486	
		その他職員	人	0	0	0	0	
		その他職員(時給×年間時間)	千円	0	0	0	0	
		計(B)	千円	7,486	7,486	7,486	7,486	
		事業費合計(C=A+B)	千円	12,663	10,122	8,310	16,565	
指標	成果指標	都市間交流人口	目標	-	-	-	-	-
			実績	271	220	118	191	
	姉妹都市友好都市助成金交付実績	目標	-	-	-	-	-	
		実績	172	170	95	122		
	活動指標	都市間交流におけるチラシ配布枚数	目標	-	-	-	-	-
			実績	3,576	2,722	569	3,318	
	新規交流先選定に向けた折衝回数	目標	-	-	-	-	-	
		実績	0	0	5	6		
@事業費	受益者数(a)	人	12	10	0	12		
	受益者あたり事業費(b=C/a)	円	1,055,250	1,012,200	-	1,380,417		

	改善点は見られない		改善点が若干見られる	○	大いに改善すべき
診断結果	<p>○数値の分析等 米国ワイアンドット市や大韓民国安養市との交流は、相手側の受入体制が整わないことや政治的関係の悪化などの理由により事業実施の有無が決定するため、毎年、直接経費が変動する。また、H30年度は、ワイアンドット市との提携 55周年や友好都市北海道八雲町との交流 30周年の年となったことから、直接経費が大幅に増額となった。 都市間交流人口については、八雲町の交流ツアーを除く各種事業が未実施となったためである。また、姉妹都市友好都市助成金交付実績については、H28,H30と安養市への訪問として、団体による助成申請があったが、H29においては、助成申請が無かったことが大きな要因である。</p>				
	<p>○近年は、ワイアンドット市側の受入体制不足などの事情による中学生の交流事業の中止や大韓民国との関係から児童交流が中止になっている。また、小学校で英語の授業が開始されることもあり、海外交流の機会を増やし、英語を学ぶ機会を増やすことを望む声が増えてきている。このため、安定的な交流ができるよう新たな交流先を検討する必要がある。</p>				

4. 総合評価

事業の方向性	拡大	対象の拡大や手段の充実等により、事業のボリュームを拡大すべきもの				
削減額・対象	事務事業評価による額	千円	予算区分	節	節	
評価結果	<p>(実計)米国ワシントン州グラント郡親善訪問事業(姉妹都市・友好都市交流事業) 米国ワシントン州グラント郡生徒相互交流事業(姉妹都市・友好都市交流事業) 現状の姉妹都市・友好都市との関係性を維持し、交流を図るとともに、現在、交流の調整を行っている米国ワシントン州グラント郡、また、外務省の関係機関と調整している新たな交流先が加わる可能性があるなどのことから、当該事業としては、「拡大」と判断した。</p>					
	<p>○今後は、外務省の関係機関を通じて、新たな交流先の調整を図るとともに、現在、交流の打診がある米国ワシントン州グラント郡との調整を行っていく。</p>					